

日本史(4)「弥生時代②～小国の分立と邪馬台国連合～」

○今回のポイント

弥生時代から文字による史料によって日本列島の歴史が確認できる。

『漢書』地理志、『後漢書』東夷伝、「魏志」倭人伝の3つの歴史書が重要。

小国の分立

(1) 農耕社会と戦争

・戦いのための武器や防御的施設を備えた集落。蓄積された[1. 余剰生産物]をめぐって戦う。

(2) クニの成立

・日本列島も水稲耕作の始まりにより農耕社会に突入し、戦いの時代に入る。

↓

・[2. クニ](強力な集落がいくつかの集落を統合した政治的な集落のまとまり)が分立する。

(3) 中国の歴史書から

☆小国分立の状況は、中国の歴史書からうかがい知ることが出来る。

※弥生時代にはまだ文字を使用していなかったが、倭国内での地位を高めるために倭国の王たちが中国へ朝貢したことから、中国の歴史書に倭国の状況が残っているのである。

① [3. 『漢書』地理志]

・紀元前後、倭人の社会は百余国に分かれ、楽浪郡に定期的に使者を送る。

☆[4. 楽浪郡]…前漢[5. 武帝]が紀元前108年に朝鮮半島に置いた4郡の一つ。

夫れ楽浪海中に倭人有り。分れて百余国をなす。歳時を以て来り献見すと云ふ。

② [6. 『後漢書』東夷伝]

(a) 紀元[7. 57]年 倭の奴国王、後漢に遣使。都；洛陽に赴いて[8. 光武帝]から印綬を受ける

建武中元二年、倭の奴国、奉貢朝賀す。…光武、賜ふに印綬を以てす。

※奴国は現在の福岡市付近にあった小国。[9. 志賀島]からは金印が発見されている。

(b) 紀元[10. 107]年 倭国王[11. 帥升]が後漢に遣使。[12. 生口]160人を献ずる

あんてい えいしょがんねん わ こくおうすいしょうなど せいこうひやくろくじゅうにん けんじ せいけん ねが
安帝の永初元年、倭の国王帥升等、生口百六十人を献じ、請見を願ふ

(c) 2世紀後半 [13. 倭国大乱]。倭で戦乱が起こる。

かん れい あいだ わ こくおおい みだれ こもごもあいこうばつ れきねんあるしな
桓・霊の間、倭国大いに乱れ、更々相攻伐し、歴年主無し。

③ 朝貢の目的

・朝貢した小国の王たちは、中国や朝鮮半島の先進的な文物を手に入れる上で有利な位置にあった。

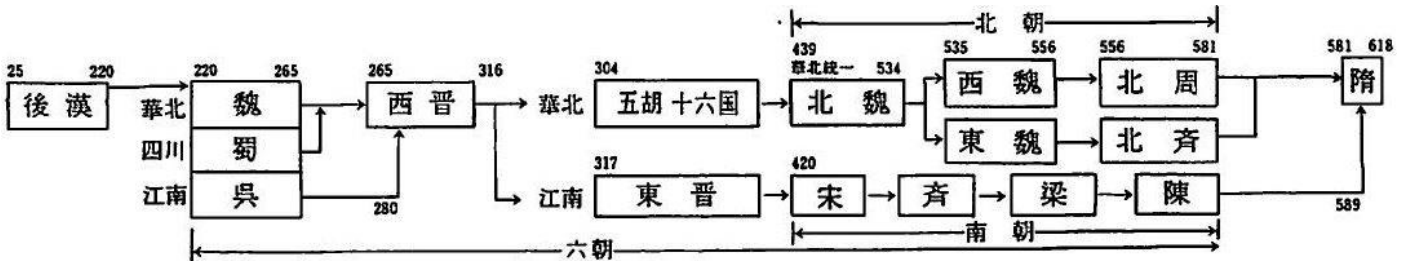
・他の小国より[14. 倭国内での立場の立場を高める]ために朝貢した。

邪馬台国連合

(1)[15. 「魏志」倭人伝]

①三国時代

- ・220年に後漢が滅び、魏・蜀・呉が並び立つ[16. 三国時代]を迎える。その『三国志』の一つである『魏書』の東夷伝倭人の条、いわゆる魏志倭人伝に倭国のことが書かれている。



②[17. 邪馬台国]

- ・「魏志」倭人伝では邪馬台国の[18. 卑弥呼]を盟主とする29国ほどの諸国の連合が生まれたとされる

(2)卑弥呼の支配

①[19. 親魏倭王]

- ・卑弥呼は[20. 239]年、魏の皇帝に使いを送り、「親魏倭王」の称号と金印、多数の銅鏡をおくられた

②邪馬台国の様子

- ・「21. 大人」—「22. 下戸」—「生口」という厳格な身分差
- ・ある程度の統治組織。租税や刑罰の制度
- ・市が開かれ[23. 大倭]という監督官が配置されていた。

(3)卑弥呼の死後

- ・卑弥呼は晩年、近隣の[24. 句奴国]と激しく戦いを繰り返した後、247年前後に没する。
- ・卑弥呼の死後、男の王が立ったが混乱し、卑弥呼の宗女である[25. 壹与](台与)が王となりおさまる。
- ・266年、[26. 晋]の都洛陽に倭の女王(壹与?)が、使いを送ったと記されている。
- ・それ以後約150年間、倭国に関する記載は中国の歴史書から姿を消す。
※晋の滅亡後、中国は南北朝の分裂期に入ってしまうため。

(4)邪馬台国論争

☆邪馬台国の所在地については、近畿地方の大和とする説と九州北部とする説に分かれる。

①近畿説を取ると・・・

- ・3世紀前半には近畿中央部から九州北部におよぶ[27. 広域の政治連合]が成立していたことになる
→ のちに成立するヤマト政権につながる。
※奈良県の[28. 纏向遺跡]では3世紀前半頃の整然と配置された大型建物跡が発見され、邪馬台国との関係で注目されている。

②九州説

☆邪馬台国連合は九州北部を中心とする[29. 比較的小範囲]のもの。

- ・(a)ヤマト政権は東方に形成され、西遷して九州の邪馬台国連合を統合。
- ・(b)邪馬台国の勢力が東遷してヤマト政権を形成。